

関西眼疾患研究会 平成26年度事業報告書

平成26年1月1日より平成26年12月31日まで

本年の事業については、平成26年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

1. 会員へ向けての定期講演会

1. 1月28日(火) 大学院特別講義

前田 希子 (米国ケースウェスタンリザーブ大学)

「網膜変性疾患に対する新規薬物治療法の開発

(New therapies for retinal degenerative disorders)」

2. 4月18日(金) 大学院特別講義

熊ノ郷 淳 (大阪大学) 「基礎研究を臨床に繋ぐ」

酒井 敏行 (京都府立医科大学) 「大学発で新薬を開発する」

木下 茂 (京都府立医科大学) 「世界標準となる治療開発を目指す」

3. 6月18日(水) 第362回 関西眼疾患研究会特別講演

手良向 聡 (京都府立医科大学) 「臨床試験の統計的デザイン 論文を正しく読むために」

4. 7月17日(木) 大学院特別講義

BARRY T ROUSE (Lindsay Young Distinguished Professor of Microbiology in the Department of Pathobiology, The University of Tennessee)

「TARGETING CRITICAL EVENTS TO CONTROL HERPETIC STROMAL KERATITIS」

5. 9月3日(水) 第363回 関西眼疾患研究会特別講演

Nancy Joyce (Harvard Medical School)

「Exploring the Proliferative Capacity of Human Corneal Endothelial Cells」

2. 海外研究者との情報交換会

1. 4月1日(火) Reza Dana, Harvard Medical School

・ドライアイに関わる炎症についての討論を行い、特に IL-1b 阻害薬の臨床効果について検討した。

2. 4月8日(火) Victor Perez, Bascom Palmer Eye Institute

・眼免疫全般について総合的に討論を行った。特に、角膜移植免疫についてはDr. Perezの独特な考えがあり、今後の発展につながるものであった。

3. 4月9日(水) Bruce Koffler, IMCLC Executive Board Member、

Paulo Ricardo, IMCLC President

・ IMCLC、SOBLEC、CLAOという世界のコンタクトレンズ主要学会の動向について意見交換を行った

4. 4月11日（金） Monty Montoya, SightLife

・ SightLifeは米国最大のアイバンクであり、アイバンク活動全般、研究用ドナー角膜の入手方法について意見交換を行った。

5. 6月11日（水） Duna Raouf

・ Duna Raouf先生よりフックス角膜内皮ジストロフィの基礎研究についてご講演いただいた。特にEMTの関与について基礎的な最新の研究成果を報告された。酸化ストレスが病態に関わっており、治療ターゲットになりうるということを解説された。一方で、酸化ストレスの発生は細胞障害の結果であるのか、原因であるのかということについては未だ解明すべき点もあるとのことである。

また、アメリカの医学教育についての講演を踏まえて、懇親会ではより詳しく、医学教育システムのことを伺った。Chief residentが集まりresidentの教育プログラムの作成にfacultyと一緒に関わるということは特に驚いた。教育プログラムに当事者の視点が反映され、しっかりとしたフィードバックがかかるのみならず、将来的なリーダーとしてのon the job trainingになっているように感じられた。充実した教育プログラムを作成して、効率的に優れた医師を輩出しようとする空気を感じる。また、アメリカの医学教育が従来型のfacultyが授業をするものから、facilitatorとして学生主体の討論に参加するスタイルにほぼ変わりつつあるということも驚きであった。しかしながら、このようなスタイルを「はやり」として日本に持ち込むのではなく、背景にある考え方を理解して採用するかどうかを決定することが肝要であると考えた。いずれにしてもアメリカのスタンダードの教育を知ることが、世界を視野に入れた医療人として不可欠であることを改めて感じ、そのようなことを考える良い機会となった。

6. 7月9日（水） Yann Barrandon, MARIE NOELLE、PERSEZUERS

・ 研究会議では、京都府立医科大学（KPUM）、スイス連邦工科大学ローザンヌ校（EPFL）とすすめている角膜上皮幹細胞を用いた再生医療に関して、その枠組みや、製造方法、臨床応用の手順にいたるまでを詳細に意見交換した。スイス連邦工科大学ローザンヌ校Yann Barrandon教授より、最新の上皮幹細胞に関する恒常性維持に関する研究のプレゼンをしていただき、今後我々の幹細胞を用いた角膜再生医療研究を進める上で、大変有意義であり、貴重な機会であった。同日、さらなる交流を目的に慎ましやかに開かれた懇話会でも、最先端の上皮、胸腺、神経幹細胞研究に関する情報を拝聴し、大変貴重な機会であった。領域横断的に、視野を広く保ち、研究を進めていく必要性を話し合うことができた。また、我々の現在までの共同研究に関する研究計画、研究結果の問題点、課題等に関して貴重なsuggestionを伺うことができた。今回の京都府立医科大学、スイ

ス連邦工科大学ローザンヌ校との角膜に関する研究会議ならびに懇話会は、我々眼科グループにとって非常に教育的な内容であり、たいへん有意義なものであった。一連の会は、関西眼疾患研究会の適切なサポートのもと、盛況にて終了した。

3. オープンフォーラム（共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会）

1. 第 43 回京都眼科フォーラム

平成 26 年 3 月 22 日（土） テーマ：『症例で学ぶ眼科疾患アップデート パートⅡ』

三村治（兵庫医科大学）「見誤りやすい神経眼科疾患」

平形明人（杏林大学）「症例から学ぶ眼底疾患アップデート」

山本修一（千葉大学）「AMD マネージメント」

- ・好評の『症例で学ぶ眼科疾患アップデート』のパートⅡを企画いたし、各分野の最前線でご活躍の先生方をお招きした。選りすぐりの症例から、明日からの臨床に役立つ最新かつ最良の疾患に対する考え方を学ぶいい機会となった。

2. 第 44 回京都眼科フォーラム

平成 26 年 7 月 19 日（土） テーマ：『症例に学ぶ日常診療のグレードアップ』

橋本雅人（札幌医科大学）「もう困らない！眼科医のための MRI 画像診断」

中澤徹（東北大学）「緑内障に学ぶ日常診療のグレードアップ」

大路正人（滋賀医科大学）「加齢黄斑変性と黄斑下血腫の治療」

木下茂（京都府立医科大学）「症例から学ぶ角膜疾患」

- ・「症例に学ぶ日常診療のグレードアップ」と題して、神経眼科、緑内障、網膜、角膜の各分野を網羅して、各分野の超エキスパートの先生方をお招きし、示唆に富んだ選りすぐりの症例をご紹介いただいた。

4. 眼科診療アップデートセミナー（共催：）

平成 26 年 3 月 8 日（土）～9 日（日）ウェスティン都ホテル京都

3 月 8 日（土）

- 「角膜形状解析と円錐角膜」 前田直之（大阪大学）
- 「ドライアイ治療の最前線」 天野史郎（東京大学）
- 「角膜内皮疾患を考える」 木下茂（京都府立医科大学）
- 「多焦点 IOL の選択方法」 ビッセン宮島（東京歯科大学水道橋病院）
- 「屈折矯正手術を考える」 北澤世志博（神戸神奈川アイクリニック）
- 「調節障害（眼精疲労）と老視の考え方」 不二門尚（大阪大学）
- 「緑内障診断スタンダード」 木内良朗（広島大学）
- 「原発緑内障：進行決定因子」 山本哲也（岐阜大学）
- 「緑内障の治療方法」 桑山泰明（福島アイクリニック）

3 月 9 日（日）

- 「感染症結膜炎へのアプローチ」 井上幸次（鳥取大学）
- 「コンタクトレンズ合併症」 糸井素純（道玄坂糸井眼科病院）
- 「眼の感染症へのアプローチ」 大橋裕一（愛媛大学）
- 「抗 VEGF 治療の最前線」 石橋達朗（九州大学）
- 「近視性黄斑変性、加齢黄斑変性」 吉村長久（京都大学）
- 「網膜循環障害への対処法」 岸章治（群馬大学）
- 「診断に苦慮するぶどう膜炎」 望月学（東京医科歯科大学）
- 「眼瞼異常への対処法」 三村治（兵庫医科大学）
- 「iPS 細胞による再生医療の最前線」 西田幸二（大阪大学）

5. 視覚再生フロンティア研究発表会

平成 26 年 5 月 31 日（土）ウェスティン都ホテル京都 コスモスホール

| | |
|------|-------------------------------------|
| 北澤耕司 | 「角膜上皮コア転写因子の同定」 |
| 中川紘子 | 「広域スペキュラーマイクロスコープによる角膜内皮疾患眼の観察」 |
| 吉川晴菜 | 「緑内障と酸化ストレス：前房水中の酸化ストレスによる緑内障の病態進展」 |
| 加藤弘明 | 「眼表面と眼瞼との関連性の検討」 |
| 加藤浩晃 | 「眼科領域における医学教育研究」 |
| 田中寛 | 「鼻涙管閉塞に対する新規治療の開発」 |
| 寺尾信宏 | 「眼底イメージングによる中心性漿液性脈絡網膜症の病態解析」 |
| 山中行人 | 「高速瞬目解析装置を用いたパーキンソン病の瞬目解析」 |
| 山脇敬博 | 「網膜色素上皮細胞の線維化と、H-DAC 阻害剤」 |
| 木村健一 | 「再生医療に関する厚生労働省の取組み」 |
| 羽室淳爾 | 「細胞間コミュニケーションと細胞変性」ISEV 参加報告 |

- ・京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第 22 回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。大学院生研究発表はプレゼンテーション（10 分間）の後に討論（5 分間）を行った。質問は活発に行われ、大学院生の今後の研究について有意義な討論が交わされた。教員と大学院生のみならず研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、包括的なお立場からのコメントやご助言をいただいた。

羽室淳爾特任教授には「細胞間コミュニケーションと細胞変性」ISEV 参加報告と題した講演をいただいた。また厚生労働省へ出向中の木村健一先生には再生医療に関する現在の状況についてご講演いただいた。現在当教室で進行中の再生医療プロジェクトあるいは今後のプロジェクトにおいて有用な情報が得られた。今後の当教室の研究の発展につながる有意義な会議であった。

平成 26 年 12 月 20 日（土）ウエスティン都ホテル京都 コスモスホール

| | |
|------|---|
| 吉川晴菜 | 「酸化ストレスマーカーによる培養ヒト線維柱帯細胞の細胞外マトリックス発現増強」 |
| 山本雄士 | 「トラベクレクトミー術後濾過胞形状に影響を及ぼす要因の検討」 |
| 北澤耕司 | 「角膜上皮分化を規定している転写因子」 |
| 田中寛 | 「Schwalbe line's cells の解析」 |
| 加藤弘明 | 「眼表面と眼瞼の関連性の検討」 |
| 山中行人 | 「高速瞬目解析装置を用いたパーキンソン病の瞬目解析」 |
| 加藤浩晃 | 「非眼科医が知っておくべき眼科疾患」 |
| 丸山悠子 | 「自己組織化によるヒト胚性幹細胞から 3 次元立体前眼部組織の誘導」 |
| 寺尾信宏 | 「中心性漿液性脈絡網膜症の病態解析」 |
| 山脇敬博 | 「加齢黄斑変性の病態形成における、RPE/Mps 間の炎症増悪回路の役割」 |
| 木村健一 | 「再生医療等の安全性の確保等に関する法律について」 |
| 羽室淳爾 | 「Seed & Soil, 過ぎしこと、法爾」 |

- ・京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第 23 回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。大学院生研究発表はプレゼンテーション（10 分間）の後に討論（5 分間）を行った。1 年生は研究の開始状況を報告し、4 年生では 4 年間の総まとめとなる研究成果が発表された。質問は活発に行われ、大学院生の今後の研究について有意義な討論が交わされた。教員と大学院生のみならず研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、包括的なお立場からのコメントやご助言をいただいた。

羽室淳爾特任教授には「Seed & Soil, 過ぎしこと、法爾」と題した講演をいただいた。また厚生労働省へ出向中の木村健一先生には再生医療に関する法整備を含め現在の状況についてご講演いただいた。現在当教室で進行中の再生医療プロジェクトにおいて有用な情報が得られた。

今後の当教室の研究の発展につながる有意義な会議であった。

6. アイセミナー

1. 3月15日(土) 第4回 アイセミナーフォーラム

大島 俊介(岡波総合病院) 「MIVS 2000～Ask, and it shall be giben you.～」

柳 靖雄(東京大学) 「後部硝子体剥離と抗 VEGF 療法について」

北澤 世志博(神戸神奈川アイクリニック) 「ここまできた! 屈折矯正手術」

許斐 健二(厚生労働省大臣官房厚生科学課)

「How to become a clinician-government official～医系技官のお仕事」

2. 9月20日(土) 第5回 アイセミナーフォーラム

米田 一仁(京都府立医科大学) 「27G 硝子体手術の効率と安全性」

佐藤 拓(群馬大学) 「加齢黄斑変性アップデート from NY」

鈴木 久晴(日本医科大学武蔵小杉病院) 「低侵襲白内障手術」

後関 利明(北里大学) 「見逃すな眼瞼痙攣、はじめようボツリヌス療法」

7. 情報提供

- ・オンラインサービス「iseminar」の会員に定期講演会や医学情報を提供した。
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した